

センターだより

財団法人 岐阜県教育文化財団
文化財保護センター

まぎずな

ぎふの 埋蔵文化財

46
2006.7.1

岐阜県の埋蔵文化財
情報が満載



特別展

「縄文人ってなかなかすごい!!!」
～わくわく徳山縄文ワールド～**」を開催**

2006年調査事業計画

のぞいてみよう!今年の遺跡

考古学教室①

年代が分かる理由

あゆみ

センター年間行事計画ほか

センター掲示板

タイムスリップ探検隊参加者募集ほか



「縄文人ってなかなかなかすごい!!」

～わくわく徳山 縄文ワールド～」を開催します。

徳山ダム建設に伴う発掘調査の成果を県民の皆様に公開します

はじめに

徳山ダム建設に伴って旧徳山村(揖斐川町)が水没することは多くの方が御存じと思います。水没予定地には多くの遺跡があるため、昭和61年度から水没地区の発掘調査が行われてきました。調査は現在、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターが実施していますが、今年度末の調査報告書の刊行をもって21年間にわたる旧徳山村における調査を終了することとなりました。文化財保護センターでは、事業の完了を記念し、「縄文人ってなかなかなかすごい!! ～わくわく徳山縄文ワールド～」として、発掘調査の成果を広く県民の皆様に公開することを計画いたしました。

発掘調査あれこれ

昭和61年のはいづめ遺跡から平成17年の櫛原村平遺跡まで、発掘調査の対象となったのは23遺跡で、延べ調査面積はナゴヤドーム(約7万㎡)より広い87,345㎡という、大規模なものになりました。遺跡のほとんどは、揖斐川とその支流沿いの平地(河岸段丘と呼びます)にありましたが、旧徳山村の広大な地域を対象として、これだけ長期にわたって継続的にかつ大面積の発掘調査を実施した例は、今のところ東海地方では他に例がないようです。

調査の対象となった遺跡のほとんどは縄文時代のものですが、調査によってひとつの地域の縄文時代を通した歴史(通史)が描けることになりました。水没しない遺跡は調査の対象としていないため断定はできませんが、縄文時代早期から晩期まで、およそ5,000年間以上と推定される徳山の縄文人の生活の跡をほぼたどることが可能であることが判明しました。

特別展開催のねらい・内容

「縄文時代・縄文人」というと「原始時代・遅れていた」というイメージでとらえられがちですが、調査を担当してきた私達は、揖斐川沿いの平地という環境を最大限に利用し尽くした縄文人の「智慧」や「たくましさ」を、調査の出土遺物から感じています。調査による成果は量的にも質的にも膨大なもので、今回の特別展ですべてを紹介することは、残念ながらとてもできませんが、文字どおり「岐阜県人のルーツ」と言える徳山の縄文人の暮らしの跡から、何かを考えていただけたら、というのが調査を担当してきた私たちの願いです。



現代の陶芸作品と言っても通用するのでは(戸入村平遺跡)

インフォメーション

開催会場・期間

岐阜県博物館(関市) 平成18年7月15日(土)～9月3日(日)
岐阜県ミュージアムひだ(高山市) 平成18年9月16日(土)～10月22日(日)

開館時間

岐阜県博物館 9時～16時30分(入館は16時まで)
岐阜県ミュージアムひだ 9時～17時(入館は16時30分まで)

休館日

岐阜県博物館・岐阜県ミュージアムひだとも毎週月曜日 ただし岐阜県博物館は7月17日(月・祝)は開館、翌18日(火)は休館します。
岐阜県ミュージアムひだは9月18日と10月9日(月・祝)は開館し、翌9月19日(火)と10月10日(火)は休館します。

入館料

入館料が必要です(大人1名320円 大学生110円 高校生以下は無料)。

主な展示の内容

「自然からのおくりもの」「縄文グルメ」「縄文ファッション」「縄文マイホーム」など12のテーマで、お子様にもわかりやすい展示を計画しています。また、「縄文人の衣装試着」「石器の切れ味」等の体験できるプログラムも用意しています。

調査報告会・講演会について

8月20日(日)13時から16時まで、岐阜県博物館ハイビジョンホールにて、講演会(講師:泉拓良京都大学大学院文学研究科教授 演題「徳山縄文文化の系譜」)を開催します。センター職員の調査報告も併せて行います。皆様のお越しをお待ちしております。



紅葉の上原遺跡周辺(川の右側の平地が遺跡です)



何か特別な液体を入れたのでしょうか(いんべ遺跡)



美しく見せたいのは縄文人も同じです(上原遺跡)

発掘調査した遺跡一覧 (現地調査順)

- はいづめ遺跡
- 戸入村平遺跡 小の原遺跡
- 戸入障子暮遺跡 追分遺跡
- 上原遺跡 下開田村平遺跡
- 磯谷口遺跡 塚遺跡
- いんべ遺跡 長吉遺跡
- 普賢寺跡 山手宮前遺跡
- 上開田村平遺跡
- 寺屋敷遺跡 塚奥山遺跡
- 小谷戸遺跡 徳山陣屋跡
- 寺平遺跡 尾元遺跡
- 櫛原村平遺跡
- 櫛原神向遺跡 いじま遺跡





のぞいてみよう！今年の遺跡

2006年度調査事業計画

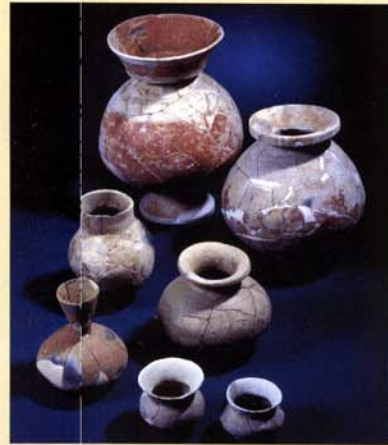


1 荒尾南遺跡・松遺跡 (大垣市荒尾町・松町)

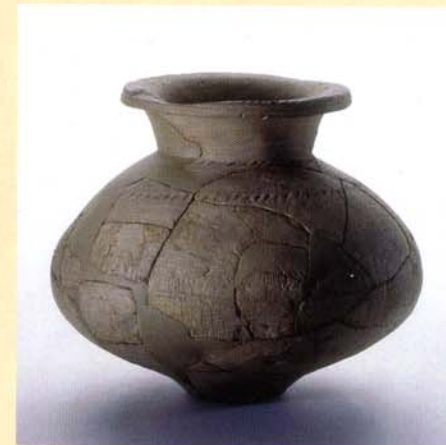
荒尾南遺跡は、JR大垣駅から北西に約3kmの大垣市荒尾町・松町にある弥生時代から古墳時代にかけての遺跡です。遺跡の大きさは、東西約300m、南北約700mに及び、この時代の遺跡では岐阜県最大級と推定される規模です。平成6年の調査では、弥生時代の終わり頃から古墳時代の初め頃にかけての「方形周溝墓」と呼ばれる墓を発見し、弥生土器や木製の道具など約5万点の遺物が出土しました。出土した遺物の中で特に目を引くのは、82本の櫂（オール）を持つ大型船の絵が描かれた「線刻絵画土器」と呼ばれる壺です。当時の船の様子を知ることができる重要な手がかりとなるものです。この遺跡の一部に東海環状自動車道が建設されることになり、今年から再び発掘調査を行うことになりました。調査を予定している場所は、周辺よりもやや高い地形で、弥生時代の集落跡が発見できるのではないかと考えています。

松遺跡は、荒尾南遺跡の東南に隣接する遺跡です。これまでの調査で、古代末から戦国時代にかけての遺跡であることが判明しています。

荒尾南遺跡・松遺跡合わせて、8,745㎡の調査を予定しています。



荒尾南遺跡から出土した土器



荒尾南遺跡から出土した「線刻絵画土器」



「線刻絵画土器」拡大写真

2 中野大洞平遺跡 (飛騨市古川町中野)

古川盆地の南西部の山麓にあり、平成14・15年度に発掘調査を実施し、古墳時代後期の大洞平5号古墳の周溝、弥生時代の方形周溝墓及び縄文中期、弥生後期、奈良時代の竪穴住居跡を確認しました。弥生時代後期の竪穴住居跡からは、北陸・東海地方のスタイルによく似た甕と高杯・器台を確認しました。飛騨と他の地方との交流がうかがわれます。

今年度は、380㎡の調査を予定しています。



14年度調査区全景



発掘調査風景

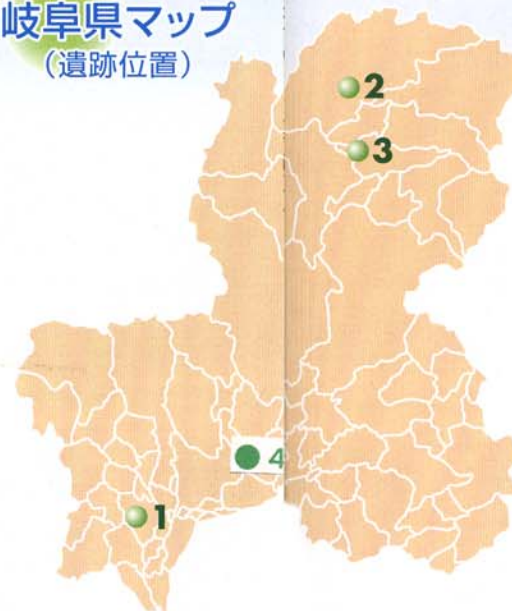


住居跡の検出状況



床面に埋められた弥生土器

岐阜県マップ (遺跡位置)



4 小洞遺跡 (関市広見)

小洞遺跡は、関市広見にあります。農道整備事業に伴って発掘調査を実施します。試掘確認調査で古墳時代から中世にかけての遺物が出土しています。625㎡の調査を予定しています。

3 野内遺跡C地区・三枝城跡 (高山市上切町)

野内遺跡は、高山盆地の北西の山麓沿いに広がる、この地方有数の大遺跡です。平成14年度から中部縦貫自動車道建設に伴う発掘調査を行っています。昨年度のC地区の調査では、古代及び古墳時代の水田跡や神社建築等に見られる独立棟持柱(建物を外側から支える柱)付き掘立柱建物跡を確認しました。また、遺物としては、古代の水田跡付近の祭祀遺構から馬形(馬をかたどった木製品)を、古墳時代と思われる水田跡からはナスビ形鎌などの木製品を発見しました。今年度も、水田跡や住居跡などの遺構とともに木製品も見つかりそうです。

三枝城跡は、野内遺跡の西の山に位置する中世の城跡です。飛騨地方の山城を考える上で貴重な資料となりそうです。

野内遺跡・三枝城跡合わせて6,200㎡の調査を予定しています。



野内遺跡・三枝城跡遠景



古代水田の検出状況



独立棟持柱付掘立柱建物跡の検出状況



ナスビ形鎌の出土状況

平成18年度は上記の遺跡のほかに、三田洞事務所棟原村平遺跡・塚奥山遺跡(揖斐川町)、赤保木遺跡・野ノ遺跡(高山市)、東野遺跡(坂祝町)、飛騨出張所で野内遺跡(高山市)の整理作業・報告書刊行を行っています。

年代が分かる理由



大熊 厚志

人間の一生はこうしたサイクルよりも長いので、「1年」と言っても、どの「1年」が区別できなくなります。これを記録したのが「暦」ということになります。ただし暦は、記録されていなければ分からないわけで(当然ですが)、古くなるほど「時間を計る」ことは困難になってきます。また「暦」を作らない文明も、多く見られます(例えばインド文明がそうです)。

人間が残した記録以外に「ものさし」として使用できるモノがないか、例えば自然界のものでもっと長いサイクルで変わるもの(要するに記録の残らない昔の年代測定に使えるもの)を研究者は探し続け、ついに20世紀に入ってから見つけました。

学校では、モノの性質の変わらない最小の単位が分子で、分子を構成するものが原子であると習いましたが、長い年月で変化していく原子が自然界には存在します。炭素原子の一部が別の原子に変わっていくこと、その半分が変わるのに経過する時間が約5,500年であることが、アメリカの研究者により発見されました。この方法(炭素14年代測定法)により、日本の縄文時代の始まりが一挙に世界最古級であることが1950年代に明らかになりました。

ただ、この方法は弥生時代以後の比較的新しい時代の測定には不向きであることや、試料とする大量の炭素化合物が必要となる等の欠点がありました。

ところが近年開発された新しい測定方法により、ごく少量(10mg以上!)の炭化物(炭や土器に付いたオコゲ)で測定が可能になるとともに、弥生時代や古墳時代などの比較的新しい時代の遺物も測定の対象として使用できるようになりました。当センターの調査で出土したいくつかの遺物についても、この方法で測定されており、ここに挙げた土器もその一つです。この土器は、東海地方の縄文人が弥生文化を受け入れた際に作った、弥生時代初頭のものと考えられます。この土器の年代も、やはりそれまでの通説よりも500年近く古くなっています。考古学者が「モノ」から考えてきた年代と大きくずれることから、この測定方法の妥当性等についてまだまだ論議はされていますが、測定されたデータが増えることで解決されていくのではないのでしょうか。

まず最初に、考古学ではどうやって年代を決定してきたかをお話しする必要があります。日本では、大きな古墳ですら「被葬者が誰」で「造られたのがいつ」か、記録されたものはほとんどありません。そこで考古学者は、中国大陸や朝鮮半島で発見されている遺物のおおよその年代を把握し、主として中国大陸の記録と照合して、より細かな年代を推定するという方法を採用してきました。例えば、前漢と後漢の間に「新」という王朝(紀元8年~23年)があり、「貨泉」という独自の貨幣を造っていました。日本国内のいくつかの遺跡から「貨泉」が出土していることから、これらの遺跡の年代は、「新」王朝の存続期間から考えて、紀元1世紀以後とおさえられるわけです。

次に年代をどう測るかですが、人間は一定のサイクルで変わっていくものを見つけて、時間の長さ(すなわち年代)を測ってきました。地球の自転・月の公転・地球の公転をそれぞれ「1日」「1月」「1年」として認識してきました。ただし、



年代測定に使用された土器 黒い部分の炭化物を採取して測定しました

写真の土器は、恵那市申原町(旧申原村)の大平(おおだいら)遺跡から見つかった、弥生時代初頭のもので、この土器に付いていた炭化物を調べた結果、炭化物の年代は紀元前915年であることが推定されています(正確には58.8%の確率で紀元前940年から895年の間に入る)。どうしてそんな「ピンポイント」で年代が分かるのか。今回は年代測定の話です。

まず最初に、考古学ではどうやって年代を決定してきたかをお話しする必要があります。

日本では、大きな古墳ですら「被葬者が誰」で「造られたのがいつ」か、記録されたものはほとんどありません。そこで考古学者は、中国大陸や朝鮮半島で発見されている遺物のおおよその年代を把握し、主として中国大陸の記録と照合して、より細かな年代を推定するという方法を採用してきました。例えば、前漢と後漢の間に「新」という王朝(紀元8年~23年)があり、「貨泉」という独自の貨幣を造っていました。日本国内のいくつかの遺跡から「貨泉」が出土していることから、これらの遺跡の年代は、「新」王朝の存続期間から考えて、紀元1世紀以後とおさえられるわけです。

次に年代をどう測るかですが、人間は一定のサイクルで変わっていくものを見つけて、時間の長さ(すなわち年代)を測ってきました。地球の自転・月の公転・地球の公転をそれぞれ「1日」「1月」「1年」として認識してきました。ただし、



あゆみ



平成18年度の組織 (平成18年7月1日現在)

| 財団役員 | | 文化財保護センター職員 | |
|------|---------------------|-------------|-------------------------|
| 理事長 | 高木 正弘 | 常務理事兼所長 | 田口久之 |
| 副理事長 | 中島 正和 | 経営部 | |
| 副理事長 | 高橋 宏之 | 経営課 | 課長 後藤 智 |
| 常務理事 | 田口 久之(兼文化財保護センター所長) | | 主査 森 芳美 石原啓之 |
| 理事 | 加藤 英夫 | | 主任 高澤信宏 |
| 理事 | 篠田 薫 | 調査部 | 事務専門職 古川裕子 |
| 理事 | 篠田 英男 | 調査第一課 | 部長 川部 誠 |
| 理事 | 杉山 博文 | | 課長 大熊厚志 |
| 理事 | 鈴木 誠 | | 管理監 鶴飼高男 |
| 理事 | 竹内ゆみ子 | | 課長補佐 成瀬正勝 春日井恒 吉田靖 香田明彦 |
| 理事 | 玉井 博祐 | 調査第二課 | 課長 近藤 聡 |
| 理事 | 殿地 昇 | | 課長補佐 河合洋尚 |
| 理事 | 松川 禮子 | | 学芸主事 長谷川幸志 近藤正枝 三島誠 |
| 理事 | 吉田 豊 | | 事務補助員 菅原祐子 |
| 理事 | 近藤 良一 | 飛騨出張所 | 飛騨出張所長 谷口陽一 |
| 監事 | 天羽 茂喜 | | 課長補佐 相馬重典 渡邊聡 |
| | | | 学芸主事 澤村雄一郎 柏木賢一 |
| | | | 事務専門職 田口絵里奈 |

センター年間行事計画

- <教育普及事業予定>
- 7/ 1(土) 岐阜県発掘調査報告会(垂井町文化会館)13:00~
 - 7/15(土)~9/ 3(日) 特別展「縄文人ってなかなかすごい!!」(岐阜県博物館)
 - 7/25(火)・26(水)8/23(木) 夏休みキッズ考古学-縄文土器づくり-
 - (岐阜県博物館・三田町事務所)
 - 7/27(木) タイムスリップ探検隊-親子で発掘体験-野内遺跡(高山市)
 - 8/ 1(火) タイムスリップ探検隊-親子で発掘体験-荒尾南遺跡(大垣市)
 - 8/20(日) 特別展講演会(岐阜県博物館)
 - 京都大学大学院教授 泉拓良先生
 - 9/16(土)~10/22(日) 特別展「縄文人ってなかなかすごい!!」(岐阜県ミュージアムひだ)

- <現地説明会予定>
- 9/ 9(土) 野内遺跡(高山市)
 - 11/11(土) 三枝城跡(高山市)
 - 11月頃 荒尾南遺跡(大垣市) 小洞遺跡(関市)
 - *詳細が決まり次第、新聞やホームページ等でお知らせします。

- <展示予定>
- 県民ふれあい会館2階「生涯学習センター展示コーナー」(9~12月)
 - ハートフルスクエアG「キュービックギャラリー」(JR岐阜駅2階 19年2月)
 - 県政資料館(山県市 7~9月、1~3月)
 - *3つの施設で定期的に展示します。ぜひご覧ください。

センター日誌

- 3/31(金) 職員転退者8名
- 4/ 1(土) 職員転入者10名
- 4/13(木) 整理作業開始
- 4/24(月) 野内遺跡発掘調査開始
- 5/ 1(月) 中野大洞平遺跡発掘調査開始
- 5/ 8(月) 荒尾南遺跡発掘調査開始
- 5/11(木)12(金) 全国埋蔵文化財法人連絡協議会 役員会(山梨県)
- 5/15(月)~29(月) ハートフルスクエアGミニ展示
- 5/23(火) 高山市立国府小6年生出前授業
- 6/ 1(木) 高山市立国府小1年生遠足(飛騨出張所出土遺物見学)
- 6/ 8(木)9(金) 全国埋蔵文化財法人連絡協議会 総会(山口県)
- 6/23(金) 理事会
- 6/24(土) 中野大洞平遺跡発掘調査現地説明会(128名)
- 6/29(木) 中野大洞平遺跡発掘調査終了

あと**き** 昭和61年に始まった徳山ダム建設に伴う発掘調査が、今年度末の報告書刊行をもって終了することとなりました。当センターでは、本文中で紹介しておりますように「縄文人ってなかなかすごい!!~わくわく徳山縄文ワールド~」と題して、発掘調査の成果を一堂に展示する特別展を企画しております。ぜひご覧ください。また、出前授業や発掘調査、遺跡見学、整理作業などの体験学習も随時受け付けております。ご要望がありましたらご連絡ください。今年度も4月から発掘調査を実施しています。この「きずな」を通して、発掘調査の様子やホットな話題をお届けしたいと考えています。

センター掲示板

親子で発掘・整理体験!

タイムスリップ探検隊 参加者募集中!



対象 県内小学5・6年生とその保護者

参加費 無料

定員 各50名前後

飛騨地区

日時 平成18年7月27日(木) 午前9時～午後4時
雨天順延(7月28日まで)
場所 野内遺跡(高山市上切町)・高山市風土記の丘学
習センター(高山市赤保木町)
申込先 飛騨出張所
TEL0577-72-4784 FAX0577-72-4690

美濃地区

日時 平成18年8月1日(火) 午前9時～午後4時
雨天順延(8月2日まで)
場所 荒尾南遺跡(大垣市)
申込先 三田洞事務所
TEL058-237-8553 FAX058-237-8551

申込期間 住所・氏名(応募者全員)・電話番号・学校名・学年・性別・希望コース名を明記の上、7月14日(金)までに
葉書・FAX・メールのいずれかでお申し込み下さい。

「出前授業」「職場体験」 等のご希望にお応えします!

文化財保護センターでは、「子どもたちに本物の土器を見せたい・触らせたい」「発掘調査を友達と体験してみたい」「わかりやすく考古学を教えてください」「職場体験をさせてほしい」という皆様の声に常にお応えしています。当センターまでお気軽にご相談ください。



文化財保護センター保管の遺物がここで展示されています!

場所 岐阜市歴史博物館(入館料が必要です)
展覧会名 特別展「体験・発見!弥生時代」
会期 7月14日(金)～8月27日(日)
内容 荒尾南遺跡ほかの遺物約200点が展示されます。

場所 多治見市文化財保護センター(入場無料 土日祝日休館)
展覧会名 企画展「縄文土器からわかること」
会期 6月12日(月)～12月1日(金)
内容 飛騨地方を中心とした縄文土器約70点が展示されています。

お申し込みいただいた個人に関する情報は、申し込み後の連絡のみに利用させていただきます。

Center **N**ews

ホームページ

<http://www.maibun.gifu-net.jp>

**三田洞
事務所**

〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1
TEL. 058-237-8550(代) FAX. 058-237-8551
e-mail: gifu@maibun.gifu-net.jp

**飛騨
出張所**

〒509-4122 岐阜県高山市国府町名張字峠1425-1
TEL. 0577-72-4784(代) FAX. 0577-72-4690
e-mail: hida@maibun.gifu-net.jp